

はしがき

第159回の大会予稿集をお届けします。今回は11月16日(土)・17日(日)の二日間名古屋学院大学(愛知県名古屋市)を会場としておこなわれます。今回の言語学会開催に際しては、シンポジウムを企画していただいた大会実行委員長の今仁先生はじめ名古屋学院大学の言語関係の方に多大なるご協力をいただきました。また、山越大会運営委員長を中心として、発表の選考、プログラムの作成をしてくださった大会運営委員の皆さま、当日司会を担当してくださる先生方、選考・審査にあられる発表賞選考部会および審査員の皆様に感謝いたします。

今大会の公開シンポジウム(11月17日)は今仁先生の発案とご尽力により「AIによって揺さぶられる言語理論 ―意味論の観点から―」というテーマで行われます。日本のAI研究をけん引してこられた中島秀之先生、ディープラーニングの権威松尾豊先生という計算機科学者のお二人と、言語学会から認知言語学・比喩理論が御専門の鍋島弘治朗先生、論理意味論・形式統語論がご専門の窪田悠介先生という言語学者のお二人とで議論するという興味深い内容となっています。中島、松尾両先生は言語学にも詳しく、鍋島、窪田両先生は計算機科学・AIにも知識があるので非常に刺激的なシンポジウムになると期待されます。

今大会の応募総数の内訳は口頭90件(受理89)、ワークショップ4件(受理4件)、ポスター6件(受理6件)、採択は口頭49件(採択率55%)、ワークショップ4件(100%)、ポスター5件(83%)です。今大会も内容は驚くほど多岐にわたり、対象となる言語の数、よって立つ理論的枠組み・方法論も多彩です。

言語学会は紙媒体の予稿集はなくなり、pdfによるもののみになりましたので事前にダウンロードしておかれるか、ご自分で印刷してお持ちください。会場では電波の状況でwifiなどが利用しにくいことも考えられますので、前もっての準備をお勧めします。

前回大会から、大会出席者は日本言語学会倫理綱領に従っていただきます。倫理綱領に関しては言語学会ホームページにてご確認ください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>

次回160回大会は6月20日・21日に東京の早稲田大学で開催される予定です。

2019年10月

日本言語学会会長 田窪 行則